

第 51 回 美都地域協議会 議事録

開催日時	平成 26 年 4 月 24 日 (木) ・ 午後 1 時 30 分～午後 4 時 00 分			
開催場所	美都総合支所 第 1 会議室			
委員出席状況	委員総数	10 名	出席委員数	8 名
会議録署名委員	青木正美委員・潮 榮委員			

【報告事項】

- ①平成 26 年度予算について . . . (資料 1)
- ②各課報告
 - ・住民福祉課
 - ①美都総合支所事務分掌について . . . (資料 2)
 - ②美都診療所について . . . (資料 3)
 - ③二川小学校跡施設の活用検討状況について
 - ・地域づくり推進課
 - ①道の駅「サンエイト美都」について . . . (資料 4)
 - ②グラウンド・ゴルフ全国大会開催について
 - ③美都学校給食調理場を核とした野菜等の地産地消の推進について . . . (資料 5)
 - ④RV パークの整備について . . . (資料 6)
 - ⑤地域自治組織について . . . (資料 7)
 - ⑥その他
 - ・建設課
 - ①簡易給水施設補助金について . . . (資料 8)
 - ②矢原川ダムの建設採択状況について . . . (資料 9)
 - ③道路改良事業の進捗について
市道丸茂三隅線・市道大埜・市道中倉尼子谷線・八坂線
 - ④双川峡の落石対策の進捗状況について
 - ⑤山のみちプロジェクトについて . . . (資料 10)

	氏 名		出欠	氏 名		出欠
	氏名	氏名		氏名	氏名	
協議会組織構成員	会 長	大 石 康 人		委 員	広 兼 重 継	
	委 員	青 木 正 美		委 員	田 中 宜	欠
	委 員	潮 榮		委 員	木 原 元 和	
	委 員	梅 津 富美子	欠	委 員	土 佐 則 幸	
	委 員	小 川 美知子		委 員	山 根 和 夫	
益田市	市 長	山 本 浩 章		政策企画局長	斎 藤 清 一	
	人口拡大課長	藤 岡 寿				
地区振興センター	東仙道	野 村 達 也		都 茂	河 野 敏 弘	
	二 川	小 原 美智子				
事務局	支所長	長 岡 邦 政		住民福祉課長	大 谷 昭 次	
	地域づくり推進課長	高 橋 和 則		建設課長	松 崎 徹	
	住民福祉課課長補佐	吉 野 聡 子				

第 51 回 美都地域協議会 会議次第

日時：平成 26 年 4 月 24 日 (木)
午後 1 時 30 分～
場所：美都総合支所 第一会議室

1 開 会

2 会長あいさつ

3 市長あいさつ

・施政方針

・意見交換

3 議 事

(1) 【報告事項】

①平成 26 年度予算について . . . (資料 1)

②各課報告

・住民福祉課

①美都総合支所事務分掌について . . . (資料 2)

②美都診療所について . . . (資料 3)

③二川小学校跡施設の活用検討状況について

・地域づくり推進課

①道の駅「サンエイト美都」について . . . (資料 4)

②グラウンド・ゴルフ全国大会開催について

③美都学校給食調理場を核とした野菜等の地産地消の推進について . . (資料 5)

④RV パークの整備について . . . (資料 6)

⑤地域自治組織について . . . (資料 7)

⑥その他

・建設課

①簡易給水施設補助金について . . . (資料 8)

②矢原川ダムの建設採択状況について . . . (資料 9)

③道路改良事業の進捗について

市道丸茂三隅線・市道大埕・市道中倉尼子谷線・八坂線

④双川峡の落石対策の進捗状況について

⑤山のみちプロジェクトについて . . . (資料 10)

4 閉 会

次回開催 平成 年 月 日 () 時 分 於 :

次 第	内 容
1. 開 会	(事務局) (開会に併せあいさつ)
2. 会長あいさつ	<p>(会長) 今年度、第1回目となるが、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。合併して10年目となった。皆さんのお力沿いをいただきながら、あと1年という任務をはたしていきたいと思っているのでご協力の程お願いをいたします。</p> <p>今回は新年度にあたり山本市長にご出席いただき、施政方針、新年度予算について説明をしていただき、協議をさせていただくことを中心に進めていきたいと思う。新市建設計画について今回協議をさせていただく予定だったが、都合により次回に移させていただきます。また、新年度から益田市も重点施策に伴う機構改革等による人事異動がある。のちほど重点施策についての説明をしていただく。</p> <p>本日は山本市長、人口拡大に向けての取り組みを行う斎藤政策企画局長、藤岡人口拡大課長も出席をいただいている。</p> <p>●斎藤政策企画局長、藤岡人口拡大課長、松崎建設課長紹介</p> <p>本日は、報告事項も盛り沢山で、時間を要すると思う。本日は市長さんから説明をいただき、26年度予算を説明して、意見交換のところまで市長さんにも在席をいただいて、その後退席になる予定です。本日よりしくお願いいたします。</p> <p>・議事録署名 青木委員、潮委員 ・欠 席 者 梅津委員、田中委員</p>
3. 市長あいさつ	<p>(市長) 皆さん、こんにちは。本日は美都地域協議会の開催誠にありがとうございます。またお忙しいところ委員の皆さまにはご出席いただきありがとうございます。平成26年度は先ほど会長からもお話があったが、合併からちょうど10年の節目の年になる。合併10年ということで様々な合併調整項目も最後のつめということになる。合併による一体感の情勢、これも大きく進めていかないといけないと思っている。のちほど施政方針等についてお話を申し上げるが、平成26年度からは人口拡大計画に取り組み、人口拡大の初年度となる。今年度については勢いを持って始めているところである。今日は、施政方針、また26年度予算のところまでご説明させていただき、そのあと意見交換ということで地域の皆様方から色々ご意見ご質問を承りたいと思っております。よろしくお願いいいたします。</p>
【施政方針】	<p>●平成26年度施政方針について</p> <p>①平成26年度 予算概要</p> <p>②人口拡大計画(益田市人口拡大計画を基に説明)</p> <p>施策(人口拡大の為の3つの要素、3つの切り口と5点の新規拡充事業)</p> <p>○3つの要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然増 ・社会増 ・交流人口拡大 <p>○3つの切り口</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代を手厚く ・UIターン大歓迎 ・中山間地域を元気に <p>○5点の新規拡充事業</p>

- ・転入増を図るためのUIターン者応援事業と空き家バンク活用事業
- ・結婚から育児までの支援
- ・小学校、中学校の教育環境の整備
- ・学び舎益田
- ・コンベンションスポーツ全国大会事業

人口拡大とは別に、この地域協議会のあり方、もしくは顧問制度のあり方について捕捉でお話します。ご案内のとおり地域協議会と顧問制度についても合併してからの10年間の時限措置。しかしながら1つには合併後の一体感の醸成をまだまだ進めていく余地がある。また制度的な措置といえば合併特例債の期間を5年延長することに決まった。この美都地域の色々な意見を市に反映する仕組みということもまだまだ制度として必要な部分もあろうかというご意見もあると思う。そうしたことから顧問制度、地域協議会のあり方もしくは機能をどうしていくかについては、まず市の本庁の方で何らかの案を取りまとめまして後ほど地域協議会にも諮問させていただく。そこで色々ご意見をいただき方針を決めていただきたいと思いますと思っている。これは匹見地域も同様に進めていきたいと思っている。

平成26年度予算について

(事務局) 別紙資料を基に説明

- ・益田市全体の予算概要、美都地域配当予算について

【意見交換】

(委員) 人口拡大計画について、これでは人を増やせないと思う。どこの市も同じようなことをやっているのであまり特色がないと思う。もっと色々考えなければならぬと思う。例えば高校卒業までの教育費を無料にするなどしないとなかなか困難だと思う。次に周辺部人口拡大について2点ある。1点は益田までの運賃。二川の場合高校に行くと通学費が大変になる。だから益田に出た人がたくさんおられる。市長の考えとして周辺部にも人口を増やしたいと言われたのですが、それに関してはお金を増やすしか考えてないですか。実際に住んでみると通学において、ものすごく負担がかかる。二川から益田駅まで1,000円。往復で約2,000円必要。月約10万円位の負担があっても私たちは住んでいる。それなのにその辺の対策が見られない。もう1点は町中と周辺部の住宅の家賃の違いがほとんどないこと。以前益田市に住んでいた。二川に帰った理由は家賃が安いのと保育料が無料だったこと。つまりはお金。近所に家賃が8万円になった人がおられる。これはつまり出なさいということと一緒に。その対策もないし、町中も田舎も同じ家賃と考えているのではないかと思う。市長さんはどう考えているのか分かりませんが、私は子供を帰すためには所得と仕事が一番だと思う。他の小さい事よりも、いい給料で仕事があるということがしっかり実現できれば子供は帰ってくると思う。給料も益田市と都市部では差がかなりあるのが現実。この差をなくして安定した給料、安定した仕事があれば帰ってくると思う。以上のことを踏まえてどうお考えですか。

(市長) 色々周辺部は交通費用がかかる、子育てについて高校卒業までに相当負担がかかる、これを補助することができれば一番手っ取り早い。一方でそれはまるごとお金を市がつぎ込むことになり、持続的にお金をつぎ込むことが困難になる。従って今回のこの計画というのは市の財政の中で出来る金額をどう配分しようかということ考えた結果になる。

益田市に仕事があればということについて、その仕事を増やすためにも、作業が活発

になるためにも民間の色々新しい活動に対して、市もある程度の予算を使ってお手伝いさせていただくが、最終的には民間企業がまとめて頑張ってもらわなければならない。ただ色々な施策を色々な方面から講じることによって何とか効果を上げていきたいと思っている。しかし、この計画を3年間やって必ず増えるとは言い切れない。理由はこの人口減少は相当根の深い問題で、日本全体の、もしくは世界全体の構造的な課題だと思うので非常に難しいと思う。しかし今回この計画を出したことによって、益田市が少なくとも人口減少に対して問題意識を持っていること、それから市の中でも人口拡大ということを最優先課題として取り組んでいることを外に向かってのアピールと、中で意思統一を図るということに繋がる。そして市民の皆様にもどうしたら人口が増えるか、益田が元気になるかということを考えていただきたいというふうに思ってこの計画を作った。従ってこれで、効果があるという大変心重たいものがあるが、少しでも益田市が元気になるように、今後発展できるようにと思っている。

(委員) 話を聞く限り一種のポーズのように聞こえる。だから中途半端な予算で計画をたてたが実現はわからない。やるのであれば予算をかけてドラスティックなことをしないとだめだと思う。やはり計画は目的を達成するためにたてるもの。だから目標を達成できない計画は意味がないと思う。

(市長) 少なくともドラスティックなことを考えれば、当然それに予算を傾けなくてはいけない。しかし、例えば今回の予算規模でどうしても先送りにできない金額が55億ある中で3年間だけ財政を持たせればよいということではなくて、そのままずっと予算を維持していき、財政を運営していかないといけない中では、本年度は割り当てられた予算で規模は決まっている。後は今年であれば8100万円をどう配分していくかのバランスだと思っている。その中で出来るだけのことは考えたというふうに受け止めていただきたいと思う。

(委員) 部局まで設けて取り組むということが単なる姿勢にならないように、やはり市長が所信表明で強く言われたことは市長の中心的な所信なので、それに対してお金がないならば他を削ってでも持ってきてこの3年間で目標を必ず達成するという意気込みをもっと前面に出して言われたら応えてやっていく形にしないといけないと思う。今では東京2便化が設定されているが、達成できなければすぐ駄目になる。要するに目の前にちらつかせてあるので、これももっと考えていただきたい。

例えば市のマイクロバスで通学路の二川から益田駅まで送迎する等して、そのバスは無料にする。そうすればバス賃を支給するのにお金がかかるかもしれないが、ただお金を出すのではなく、そういうふうにお金を使えないかとか頭を少し捻り、そういう方法はどうかと考えていただきたい。それは石見交通との兼ね合いが難しいとか、色々課題が出てくると思う。でも、市長の頭の中にはそういう問題意識がなかったということで、バス賃がかかることも認識頂いたので、もっと周辺部のことについて考えていかないと周辺部は高齢化がどんどん進んで大変だと思う。

(市長) お言葉ですけど、私は二川の奥から益田駅までのバス賃は知らなかった。しかし、以前の地域振興課、今は人口拡大課の交通担当の職員は当然把握していると思う。だから私がたまたま知らなかったということで市がそれに対して問題意識を持っていないということはない。

(委員) では、なぜ対応をとらないのですか。それだけ負担をかけられて暮らしている。

(市長) まず路線バスについて、特に地方の路線に対して赤字補填は市が行っている。そして、市でマイクロバスを出すことについては言われたように、石見交通との兼ね合いは必ずあると思う。石見交通がありながら市で無料や安い運賃で人を運ぶということができない。それができないから都茂でも二川でも自治会輸送という道路運送法の隙間を縫って、もしくは地域の方の善意をもって何とかやっている。出来ることならもちろんやりたいが、出来ないことや支障があれば色々な工夫が必要だと思う。

(委員) それだけ周辺部が負担を負っていることを頭に入れておいていただきたい。草刈にしても周辺部はかなりしている。周りを守っている人がいる中で市がもっと手厚くしていただかなければ、周辺部の高齢化が進み、やがて中心部の衰退にも繋がるのではないかと思う。

(市長) 周辺部の方が面積は広いが、中心部は中心部の自治会でやっている。それは程度の差であって周辺部はやっているが中心部はやっていないというわけではないと思う。

(委員) 程度の差と思いますか。中心部と周辺部が程度の差ですむと思っていることが認識不足と言っている。

(市長) 草刈を、例えば私は高津に住んでいるが、高津の自治会でやっている。溝掃除とかもやっている。それを中心部は何もやっていないといわれるとそれは違うと思う。

(委員) 以前は高津に住んでいたが、差がケタ違い。中心部の自治会では、1日中草刈りはしないと思う。周辺部は1日中刈るが同じ10円。市内が同じ10円で草を刈るなら程度の差と言うのはどうかと思う。その辺の実情を踏まえて、もう少し手厚いことをしていただかないともたない。高津は当時お金を払えば出なくてよかった。だからみんなお金払って出ない。周辺部の場合は、お金払って出ない人がいたら、出る人が大変だから協力して皆やっている。皆でやらないと終わらない。中心部もやっていると言われるが差が大きすぎると思う。

(市長) 差があることは分かる。中心部は中心部の皆さんでやっている。それは程度の差はあるが、その程度の差が僅かとは私は申し上げてない。だからそこは違うということでも申し上げた。

(委員) 人口拡大に力をいれるのであれば、その辺を認識してもう少し周辺部に手厚いことをしていただければ、5年のところが10年は持つかなと思う。

(委員) 26年度から色を出すということが具体的に出てきた。周辺部と中心部は、島根県と東京都等の大都市と比べるようなもので、益田市全体の中でも周辺部は中山間地であって、駅前や高津の方が都市化しているということ。そういう例えで話すと議論になる。所得や費用面を考えると、都会並みに稼ぐには田舎でどんな方法があるかと

いうと、農林業等々だと思ふ。しかし、都市中心部に出てとうとう田舎で住めないという環境になったのは事実だと思ふ。今後、息子、娘が帰っているのかという議論になることもあると思ふ。農林業は本当に衰退したのか。65歳は高齢化というよりも、この地域で稼ぐにはどういう方法があるのか等バランスが取れてない。若い人がUIターンで帰ってくる時には他の自治体に取り組んでいるレベルになっているといいと思ふ。ようやくこういう施策ができたのは非常にいいと思ふ。稼ぐ、地域経済をどうしていくかということに合わせてしっかり話していただきたい。市は、どうゆう所得者がいるかということまでは把握出来ないかもしれないが、大体、年金者、稼ぐ企業がこれぐらいあって、従業員がどれぐらいという状況を把握してほしい。人口5万弱でその所得がどうゆうバランスであれば税収がこうである等、シミュレーションしてまず知ってみる。そして農林業にどれだけお金が費やせたらどうなるかとか、誘致企業でどれぐらいのことになるかを考えるのはあまり難しい作業ではないと思ふ。

新聞で見たが、2年かけて2便化をしてうまくいかなかった場合は折半というふうを書いてあった。その折半はどれくらいなのか、何億ならばそのぎりぎりまで使えば良い。これは危険だということかもしれないけど、折半を何億にするならば何億ほどは力をかけて結果を出す。そういう取り組みのバランスが取れてない農林業等、地域で生きていくための稼ぎ方のバランスが取れてない。市は困難な話をするばかりでなく、こういうことを進めれば、林業が栄える、農業耕作放棄地も使える等、もっと具体的な事がないのが残念。二川地区が地域自治組織を論議する際もそういうことを入れながら、話していかないと、ただ世話役を決めればいいのか、ある一定のお金をもらって運営すればいいというだけではないと思ふ。まだまだ始まった状況なのでこういうことが出て非常に良かったなと思ふ。

(市長) 今回3年間契約ということで出したが、進めていく中で、もう少し同じ金額であるならば、こうすれば効果があるのではないかということが見えてくるのではないかと思ふ。こういう会議もだが、地域の方々から色々なご意見とか教えとかもあるかと思ふ。

(委員) 財政のことで1つ聞きたいことがある。起債の内容について教えていただきたい。合併特例債がどれくらい入っているか、どれくらい使えるのかが分かりますか。

(事務局) 例年、益田市の予算説明資料という形でここ3年間作っているがその中に記載がある。今年も作成中である。

(委員) 合併特例債三等分ならば、美都支所分も入っているのかと思つた。
次回提示していただければよい。

(委員) 津和野等は色々な取り組みにおいてどこにも負けないように意識して自分たちでやろうということで報道などを非常にうまく使っている。その辺のことはどうか。財政が苦しいことは分かるが、お金がないと言う話からはいると事業の提案も出来ない。そういうことは言わずに、こういう提案をすればこうこれだけお金がかかると言う話なら良い。困っている人を相手に金がないという話をされると非常に情けない。お金を稼ぐ方法を考えていただきたい。都会には田舎に住みたい人が沢山おられると思ふ。この「3つの切り口」はとても大切だと思ふ。だからもっと受け入れる立場として色々な体制を考えることが大事だと思ふ。

(委員) 最近人口拡大について新聞でも1面に載っているように益田市はとてもインパクトがあったと思う。市民も期待していることを前提に1つだけお聞きする。地域魅力化応援隊事業で、今回金額として1億5600万で、非常に大きな事業になっているが、今まであった地域力アップ隊員の事業と具体的にどう変わってくるのか。各地区振興センターにおかれていた地域力アップ応援事業でそれぞれの地域が独創的という形になっていたが、どの事業をどこまでやるのかが今ひとつ見えなかった。色々な動きをされていたが市として何をしようとしているのかが見えなかった。新しい事業が3年間で具体的に何をどこまでやろうと思って人の配置をされていくのか。今までの延長で各地域で色々なことをというだけのあやふやでない、具体的な成果目標的なものがあるか。

(事務局) 【資料を基に説明】魅力化の事業を今年度から進めるために人材が必要になってくる。そういう意味で魅力化応援隊員をそれぞれ地域の方から要請があれば配置するということである。従来の地域力アップ応援隊員の配置をしてやった事業を今年度改正して取り組む。実際対象となる事業内容は、ここでは地域魅力化プロジェクト事業の推進に関するということを書いてあるが、要は地域における定住対策について地域の皆さんが組織を作って考えていただきたいということで、それをするには専門的な職員が、市で言う嘱託職員配置になるが、そういう方を配置して取り組んでいただきたいと思っている。これが従来の地域力応援隊員は継続しているという形になるが、定住対策に向けてどう取り組むか、もう1つは地域自治組織に向けての準備段階でやり進めていただくためとしてその応援体制を進めていくつもりである。

(委員) テーマを、定住と地域自治組織設立にある程度絞り込んで進めていくということですか。

(事務局) そうです。

(委員) わかりました。

(市長) 若干捕捉させていただくと、今までも地域力アップ応援隊員さんに期待する事業や活動の項目はあったが、地区振興センターの中、もしくは地域の中でお手伝い的なことに追われていたという、そういうきらいもあったかもしれない。今回事業と隊員の名称を変えるが、もう少し地区の独自の取り組みをやっていただくということ。これは地区振興センターの中で取り組んでいくし、その中には地域の人との連携も備わってくる。そこは言葉が悪いが、便利使いにならないように応援隊員のお考えで進めていくという考えである。

(事務局) 先ほどの市営住宅家賃の件について、地域バランスがとれているか、つまり便利なところと不便なところというご質問があった。公営住宅法に基づいて、国の補助金をもらって建てた住宅で、家賃の決定の根拠の1つに利便ケースという名称だったと思うが、地域的に便利なところ、不便なところというふうな配慮ができるようになっている。その係数で二川では低い数字が出るので安くする。市内の方では利便係数で高い数字が出るようにして家賃を上げるなど配慮がされているというのが実態。ただ差が大きく出るかどうかは資料がないので詳しく答えられないが、家賃についてはそういう配慮がされている。先ほど8万円になったと言われたが、8万円が正しいかどうかわか

らないが、公営住宅法は、住宅に困窮する低所得者に向けての住宅なので、収入が基準では年額を12で割って月当たりが15万8000円を超えると収入超過という扱いで出ていって下さいという勧告をすることになる。それが長年続くと、今度は家賃にも反映してくる。8万円が正しいとすれば、近傍同種という家賃の考えがあるので、元々作った費用をここからも算定することになる。そういうものの最高額がかけられているのだと思う。これは何とかならないのかというと、この公営住宅の観点からはどうにもならないので、例えばそれを地域の定住ということで別の角度から何かあるかもしれないが、今現在では具体的なものがないというのが現状。

(委員) 秦記念館の管理が、教育委員会から支所へ移行されて大変喜んでいる。しかし市長も議員の時に自ら顕彰委員をされた。7年間診療所におられた前医師の方が、今年度ふるさとにお帰りになった。その時に1番最後に言われたこととして「こちらに赴任したときに秦先生のことは良くご存じで秦先生の像の前で深くお辞儀をして私がこの偉大な人が生まれた場所で働いていいものか」ということだった。それだけの方の秦記念館がここにある。今運営を人材センターの方がしておられるが、運営していく上でもう少し充実し、週1回でも月1回でも有識者の方に是非詰めていただきたいと常々思っている。なかなか体制は変わらないが、どういう運営体制なのかと思う。又、診療所について、地域医療に回られた新しい医師が詰めてこられて非常に皆さん喜んでいる。この地で最期を終えたい、家で最期を終えたいという方がおられて、そう意味では病気になったら益田の専門で診てもらえばいいということではなくて、この地域医療をそういう先生に最後まで診てほしいと言っておられる方が多い。今施設が美都に3つあるが、そこの連携をもつていただき、運営体制を考えていただきたい。市長さんのコンセプトの中で健康長寿のまちづくりということで、UIターンされる方も、そういう医療の充実もこれから続いてほしいと思う。

(市長) 私の方から診療所の事をお話しさせていただくと、今回先生にも私たちの方から美都は保育所から小学校、中学校から老人福祉施設があり、地域が先生という存在をとっても必要としている地域であることをお伝えしている。先生ご自身も都会での医療よりもへき地で住民の方々と接して、住民の方々に必要性を感じていただくという中で医療に重視することにやりがいを感じておられる。本当に今回のご縁は良かったと思っている。ご承知のとおり益田医師会から派遣という形になっているので直接先生を見つけたというわけではない。しかし、医師会にもこうした形でこの地域に必要な医師を確保していただくことをよろしくお願ひしたいと思っている。

(事務局) 秦記念館の管理について、言われたようにシルバー人材センターの方に利用者からお金をいただくという業務の委託をしている。今年度から美都支所にその管理が移ったが、今現在では同じ手法でやろうと思っている。ただ言われるように、例えば施設専門の学芸員という方がおられて、来られた方に十分な説明ができるという体制ができていないというのが現状。一方、来場者の数は、年間おおよそ300人ぐらい。予約等頂ければそういうふうな対応できるようにするのが1番現実的な方法だとは思っているが、今年度から管理を始めるので、館内を説明でき、秦先生についても説明できる人材というのが行政にいるのか、それとも地域の方にお願ひしなければいけないのかということは考えさせていただく。そういうふうな目的で来館された方には適正な説明ができれば良いとは思っているが、具体的にはできていない。もう少し時間をいた

できればと思っている。

(会長) 他にないようなので、またいろいろな機会にお話をいただきたいと思う。先ほどからありますようにこの計画も始動したばかりなので、今後色々なご意見を聞きながら計画を達成したいと考えている。沢山のご意見、ご要望いただきたいと思っている。方針と予算について以上で終わりにしたいと思います。よろしいでしょうか。

《委員全員 了承》

(市長) ありがとうございました。

-休憩-

【報告事項】

(会長) 報告事項をお願いします。

(住民福祉課)

[事務局]

①美都総合支所事務分掌について

①美都総合支所事務分掌について
資料2を基に説明

②美都診療所について

②美都診療所について
資料3を基に説明

③二川小学校跡施設の活用検討状況について

③二川小学校施設活用検討条件について

[条件]

- 地域の振興に資するものであること
- 地域住民に喜んでもらえること
- 実現可能なものであること
- 計画的・安全的に運営できるものであること

[使い道]

- 1F 地区振興センター、自治会、各団体活動拠点
- 2F 合宿定住等ができる宿泊施設

(地域づくり推進課)

[事務局]

①道の駅「サンエイト美都について」

①道の駅サンエイトについて
資料4を基に説明

・7月1日再開に向けて、準備を進めている。

・委託期間—平成26年7月1日～平成27年3月31日

②グラウンド・ゴルフ全国大会について

②グラウンド・ゴルフ全国大会開催について

・合併10周年、ひだまり認定コース14コースになることを記念して10月に開催する。現在準備を進めている。

③美都学校給食調理場を核とした野菜等の地産地消について

③美都学校給食調理場を核とした野菜等の地産地消の推進について
長岡支所長 資料5を基に説明

④RVパーク整備について

④RVパークの整備について
資料6を基に説明

⑤地域自治組織に

⑤地域自治組織について

<p>ついて</p> <p>⑥その他</p> <p>(建設課)</p> <p>①簡易給水施設補助金について</p> <p>②矢原川ダムの建設採択事業について</p> <p>③道路改良事業の進捗状況について</p> <p>④双川峡落石対策の進捗状況について</p> <p>⑤山のみちプロジェクトについて</p>	<p>資料7を基に説明 「魅力ある地域づくり ～地域魅力化プロジェクト事業～」参照</p> <p>⑥その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年8月採用、美都地域づくりコーディネーター 滝川紹介 (美都地域づくりコーディネーターより、資料を基に活動報告) ・26年度美都地域振興補助金募集、美都温泉まつり、UIターン者応援事業補助金、空き家改修事業、岡本真夜コンサート、神楽魂開催のお知らせ <p>[事務局]</p> <p>①簡易給水施設補助金について 資料8を基に、統一する前、統一後の益田市簡易給水施設整備事業概要について説明</p> <p>②矢原川ダムの建設採択事業について 資料9を基に説明</p> <p>③道路改良事業の進捗状況について 市道丸茂三隅線、市道大埤線、市道中倉尼子谷線、八坂線について報告</p> <p>④双川峡の落石対策の進捗状況について 平成22年度工事着手、平成30年の完成を見込んでいる。</p> <p>⑤山のみちプロジェクトについて 資料10を基に説明</p> <p>(会長) 全体を通して何か質問がありますか。</p> <p>(委員) 地域自治組織の事について、モデル地区の予算配分があると思うが、それ以外のところでも予算配分はあるのか。</p> <p>(事務局) 資料にある地域魅力化プロジェクト事業ということで、自治組織を設立するための準備にかかる経費ということで先進視察、アンケート調査、勉強会等、そういうことをされる地区に関しては「先進視察、現状及び会議を実施する団体」ということで出される補助金が1つある。また、地域魅力化事業費ということで、先ほどから人口拡大に向けて市長の方から説明があったが、そういう取り組み、地域のイベントなどによって交流人口を呼び込むという事業に対する補助金がある。</p> <p>(委員) 立ち上げる補助金に関してはこのプロジェクト事業の25万円が最高額ですか。1年間で25万円ということか。</p> <p>(事務局) そうです。毎年25万円になるかは不明だが、今年度は25万円になる。</p> <p>(委員) 自主防災組織について、立ち上げをして、何とか秋に1回目の行事とか部会などを開催し考えようと思っているが、それに対する会議費等はあるのか。</p> <p>(事務局) あるということで認識しているが、詳しくは調べてみないと分からない。</p>
--	---

(委員) 例えば講師等をお願いする際に講師料や旅費が出るのか。

(事務局) また調べてみます。

(委員) 美都学校給食を中心としていこうという計画について、非常に経済効果があるということで生産者の人達もとても意欲が出るのは良いと思う。施設では、生産者の方から色々な野菜が出てくると思うが、それは全てオッケーなのか。

(事務局) 今現在、保育園や老人福祉施設は手作業でやっている。規格が多少大きいものも小さいものも使ってくれると思う。学校給食の方は、機械を使って調理されるので、ある程度サイズが揃わないと出来ないということが実情。今度新しく整備する場合には、もう少し柔軟に対応できるような機械を購入していく計画がある。今使っている機械を改修するという事になれば、新たな機械が導入されると思うが、今現在では規格が完全に揃わないものを全部受入れてもらえるところまでは行っていないのが実情。当面は一定規格のなかで納めていくということになると思う。

(委員) 美都を残すということでそういうねらいもあると思うが、お互いに効果があるように、旬の野菜を味わうということをお願いしたい。

(委員) 山のみちプロジェクトについて、何年からやるということは決まってないのか。

(事務局) 26年度から31年度までの計画となっている。

(会長) 他に質問はありませんか。

《質問・意見無》

4. 閉会

(会長) 次回は、市長の方からもありましたように、地域協議会並びに顧問制度について、条例では26年度になっている。このことについてどうするかという諮問があるかと思う。それらに合わせる等、最初に申し上げたように議会の特別委員会、また匹見との調整もあるので、それを見ながら今日まで続けてきた検証について総括をしていきたいと思う。以上で終わります。本日はお忙しい中ありがとうございました。

— 16:00 終了 —

第 51 回地域協議会の顛末を記載しその相違ないことを証するためここに署名する。

平 成 26 年 4 月 24 日

議事録署名者

同